

# 五輪サーフィン「田原が最適」

## 会場誘致に 山下市長ら 国など4機関へ陳情書提出

田原市の山下政良市長と大村秀章知事が22日、2020年(平成32)年東京五輪で競技候補となっているサーフィンの大会会場誘致を要望する活動の第一歩として、大会組織委員会(東京都)をはじめぬ国などの関連4機関に出向き、陳情書を提出した。

要望活動には地元市議会の太田由紀夫議長、渡会清継副議長、長神隆士、辻史子両議員らも同行し、布村幸彦・組織委員会副事務総長を皮切りに、鈴木大地・スポーツ庁長官、遠藤利明・国務大臣(内閣官房東京競技担当)、酒井厚志・日本サーフィン連盟理事長らと面会した。

山下市長は、国際サーフィン競技大会の開催実績や波の良さ、景観美、日本の中心に位置する地理的好条件など競技運営の適正と優位性を訴え「田原市一丸となり、東三河、県で盛り上げます」と、大会を迎え入れる熱意と決意を伝え、陳情書を手渡した。

これに対し、遠藤国務大臣は、組織委員会とIOC、国際競技団体(ISA)の3者協議で開催地が決定することを説明した上で「地域全体で誘致を進めていくという思いが伝わった」と話した。

山下市長は、取材



遠藤国務大臣(左から3番目)に陳情書を手渡した、大村知事(同4番目)と山下市長(同5番目)ら(田原市提供)

に対し「しっかりと話を聞いてくれた。十分に検討して判断する」との言葉も頂いた。感触は良かった」と手応えをにじませている。(千葉敬也)